

◎指示があるまで開かないこと。

(令和5年2月4日 16時00分～18時30分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は75問で解答時間は正味2時間30分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)の問題ではaからeまでの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)では1つ、(例2)では2つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例1)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例2)の質問には1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1) 101 医業が行えるのはどれか。

- a 合格発表日以降
- b 合格証書受領日以降
- c 免許申請日以降
- d 臨床研修開始日以降
- e 医籍登録日以降

(例2) 102 医籍訂正の申請が必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 氏名変更時
- b 住所地変更時
- c 勤務先変更時
- d 診療所開設時
- e 本籍地都道府県変更時

(例1)の正解は「e」であるから答案用紙の **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	(c)	(d)	●

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	●

(例2)の正解は「a」と「e」であるから答案用紙の **a** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	●	(b)	(c)	(d)	●

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	●

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d 保健指導を行う義務
- e 都市部で勤務する義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「d」であるから答案用紙の (a) と (c) と (d) をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

103	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
103	●	(b)	●	●	(e)

↓

答案用紙②の場合、

103	103
(a)	●
(b)	(b)
(c)	●
(d)	●
(e)	(e)

- (3) 計算問題については、 に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ 1 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 4)の質問には丸数字 1 つにつき 2 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 4) 104 68 歳の女性。健康診断の結果を示す。

身長 150 cm、体重 76.5 kg(1 か月前は 75 kg)、腹囲 85 cm。体脂肪率 35 %。

この患者の BMI(Body Mass Index)を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第 1 位を四捨五入すること。

解答： ① ②

(例 4)の正解は「34」であるから①は答案用紙の ③ を、②は ④ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

104	①	<input type="radio"/> 0	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input checked="" type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9
	②	<input type="radio"/> 0	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input checked="" type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9

答案用紙②の場合、

104	①	②
	<input type="radio"/> 0	<input type="radio"/> 0
	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 1
	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 2
	<input checked="" type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 3
	<input type="radio"/> 4	<input checked="" type="radio"/> 4
	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 5
	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 6
	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 7
	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 8
	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 9

1 腹部診察について、Traube 三角を構成するのはどれか。3つ選べ。

- a 脊 椎
- b 肋 骨
- c 腋窩線
- d 腸骨稜
- e 肋骨弓

2 地域包括ケアについて誤っているのはどれか。

- a 二次医療圏単位で構築される。
- b 生活支援サービスを中核とした包括的ケアである。
- c 介護保険事業計画の策定によりシステムとして構築する。
- d 高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的としている。
- e 地域ケア会議で個別課題の支援を通じた地域の課題把握を行う。

3 交絡因子について正しいのはどれか。

- a 偶然誤差の一種である。
- b 曝露因子と関連している。
- c コホート研究では発生しない。
- d 統計的に有意でなければ無視できる。
- e データを収集した後には新しい交絡は発生しない。

- 4 災害医療について正しいのはどれか。
- a 災害拠点病院は市区町村が指定する。
 - b 災害現場では医師は救急救命士の指揮下に入る。
 - c 防災体制を整備する地域的単位を二次医療圏と呼ぶ。
 - d トリアージは医師以外の医療職も行うことができる。
 - e 災害医療とは災害時健康危機管理支援チーム〈DHEAT〉の医療活動のことである。
- 5 病床機能報告における病床機能の区分に含まれないのはどれか。
- a 高度急性期
 - b 急性期
 - c 回復期
 - d 療養期
 - e 慢性期
- 6 プライマリヘルスケアについて述べられているのはどれか。
- a オタワ憲章
 - b アデレード宣言
 - c ジュネーブ宣言
 - d ヘルシンキ宣言
 - e アルマ・アタ宣言

7 医療機関における産業廃棄物でないのはどれか。

- a 使用済みメス
- b 未使用注射針
- c アルコール試薬
- d 使用済みゴム手袋
- e シュレッダー処理された書類

8 経食道心エコー図(別冊No. 1A、B)を別に示す。

矢印の構造物として正しいのはどれか。

- a 僧帽弁
- b 三尖弁
- c 大動脈弁
- d 肺動脈弁
- e 心房中隔

別 冊 No. 1 A、B

9 感染症法上の五類感染症のうち、全数把握対象疾患である梅毒、風疹、麻疹、後天性免疫不全症候群、薬剤耐性アシネトバクター感染症について、発生動向調査によるそれぞれの患者数の年次推移を示す。

年	A	B	C	D	E
2011	827	1,535	378	439	—
2012	875	1,438	2,386	283	—
2013	1,228	1,586	14,344	229	—
2014	1,661	1,538	319	462	15
2015	2,690	1,431	163	35	38
2016	4,575	1,443	126	165	33
2017	5,826	1,395	91	186	28
2018	7,007	1,301	2,941	279	24
2019	6,642	1,231	2,298	744	24
2020	5,867	1,094	101	10	10

風疹はどれか。

- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

10 角層細胞間脂質を構成するのはどれか。

- a ケラチン
- b セラミド
- c アミロイド
- d デスモソーム
- e ヘミデスモソーム

11 後腹膜に固定されている臓器はどれか。

- a 食道
- b 胃
- c 十二指腸
- d 空腸
- e 横行結腸

12 我が国における、将来人口を定常的に保てる合計特殊出生率(人口置換水準)の値に最も近いのはどれか。

- a 1.0
- b 1.1
- c 1.9
- d 2.1
- e 4.0

13 介護保険について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 自己負担率は5割である。
- b 福祉事務所が認定を行う。
- c 介護予防サービスが含まれる。
- d 保険料は市町村によって異なる。
- e 高齢者医療確保法で規定されている。

14 すべての新生児に対してマススクリーニングが行われているのはどれか。

- a Menkes 病
- b Gaucher 病
- c Lesch-Nyhan 症候群
- d メープルシロップ尿症
- e 副腎白質ジストロフィー

15 医療保険による在宅医療サービスはどれか。3つ選べ。

- a 在宅看取り
- b 歯科訪問診療
- c 妊産婦訪問指導
- d 訪問リハビリテーション
- e 訪問看護ステーションへの指示書の交付

16 40～59歳の男性30,000人を対象に、肺癌死亡について10年間観察した。結果を表に示す。

喫煙歴の有無	肺癌死亡率(人/1,000人年)
喫煙歴なし	0.10
喫煙歴あり	1.20

この表から判断できるのはどれか。

- a 研究手法は症例対照研究である。
- b この研究は喫煙と肺癌の因果関係を証明している。
- c 喫煙本数と肺癌死亡率の間に量・反応関係がある。
- d この結果から喫煙による肺癌死亡の寄与危険度が計算できる。
- e 喫煙者の非喫煙者に対する肺癌死亡の相対危険度は1.2である。

17 我が国で種類の異なるワクチンを同時接種以外のスケジュールで接種する場合、間隔を27日以上あける必要がある組合せはどれか。

- a BCG ————— ロタウイルスワクチン
- b MR ワクチン ————— 水痘ワクチン
- c おたふくかぜワクチン ————— 4種混合ワクチン
- d 小児用肺炎球菌ワクチン ————— B型肝炎ワクチン
- e インフルエンザ桿菌ワクチン ————— MR ワクチン

- 18 相対的貧困について正しいのはどれか。
- a 世界銀行が定義している。
 - b 生活保護を受給している世帯の状況を指す。
 - c 単身世帯の相対的貧困率は母子世帯より高い。
 - d 世帯の大きさによらず世帯所得の高さで決まる。
 - e 我が国の相対的貧困率は OECD 加盟国の平均より高い。
- 19 介護保険法に基づき身体機能・生活機能の維持・向上を目的として行う機能訓練の職務に従事できない資格はどれか。
- a 看護師
 - b 介護福祉士
 - c 言語聴覚士
 - d 作業療法士
 - e 理学療法士
- 20 国際生活機能分類<ICF>について正しいのはどれか。
- a 障害者を対象とした分類である。
 - b 参加制約は生活環境に起因する。
 - c 障害程度を基準にした分類である。
 - d 機能障害のために活動制限が生じる。
 - e 参加制約と社会的不利は同義語である。

- 21 チーム医療について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 職種間での競争意識向上が主な目的である。
 - b 多職種相互の十分な業務理解により促進される。
 - c チーム医療リーダーの職種は医師に限定される。
 - d 患者情報は多職種で共有できる仕組みが重要である。
 - e 多職種カンファレンスに患者の家族は同席できない。
- 22 介護保険の要介護認定の一次判定で調査する項目でないのはどれか。
- a 家族構成
 - b 生活機能
 - c 認知機能
 - d 社会的行動
 - e 基本動作機能
- 23 上顎洞が開口するのはどこか。
- a 嗅 裂
 - b 上鼻道
 - c 中鼻道
 - d 下鼻道
 - e 上咽頭

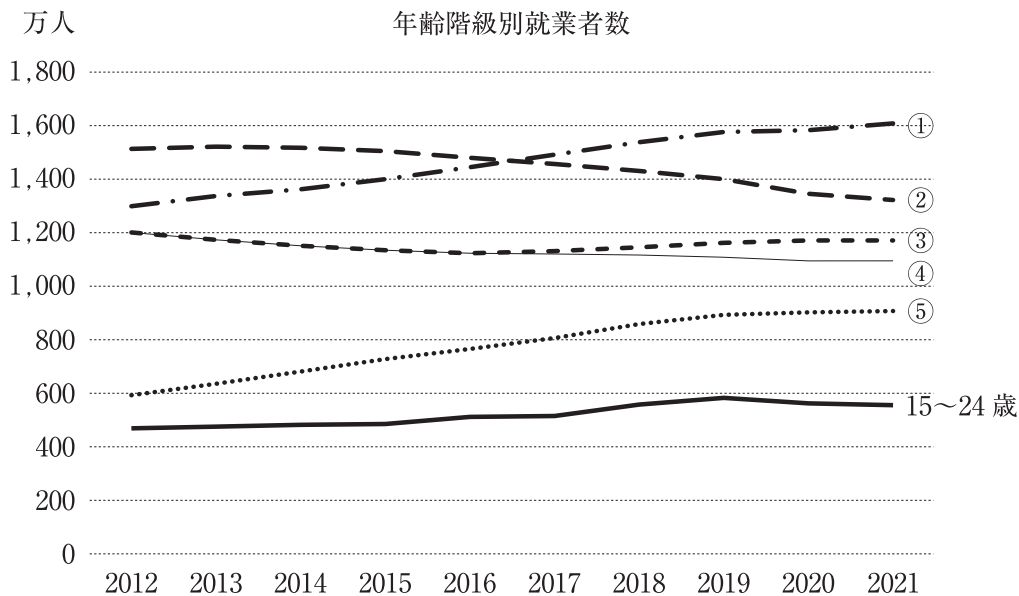
- 24 医療安全支援センターについて正しいのはどれか。
- a 市町村に設置される。
 - b 医療事故調査を実施する。
 - c 地域保健法に規定されている。
 - d 患者・家族からの苦情に対応する。
 - e 看護師の常駐が義務付けられている。
- 25 日本のへき地保健医療対策について誤っているのはどれか。
- a 巡回診療が推進されている。
 - b IT の活用が推進されている。
 - c 医療計画の5事業に含まれている。
 - d へき地医療拠点病院は一次医療圏単位で整備される。
 - e プライマリケアを実践する医師の確保が求められている。
- 26 院内感染の対策として陰圧空調の個室で管理すべきなのはどれか。
- a インフルエンザ
 - b ウイルス性胃腸炎
 - c 肺結核
 - d 流行性角結膜炎
 - e 流行性耳下腺炎

- 27 学校保健安全法に規定されていないのはどれか。
- a 学校職員の健康保持
 - b 食に関する指導(食育)
 - c 児童の学校外における安全点検や対策
 - d 児童の心的外傷後ストレス障害(PTSD)へのケア
 - e 就学中に発生した災害時の児童に対する安全対策
- 28 日常生活動作(ADL)の評価法はどれか。
- a Barthel Index(BI)
 - b Japan Coma Scale(JCS)
 - c Glasgow Coma Scale(GCS)
 - d Brief Psychiatric Rating Scale(BPRS)
 - e Mini-Mental State Examination(MMSE)
- 29 我が国の主要死因別にみた死亡率(人口10万対)の推移(別冊No. 2)を別に示す。
A はどれか。
- a 自殺
 - b 肺炎
 - c 老衰
 - d 肝疾患
 - e 不慮の事故

別冊

No. 2

30 2012年から2021年までの15～24歳、25～34歳、35～44歳、45～54歳、55～64歳、65歳以上の6階級における年齢階級別就業者数の推移を示す。



65歳以上の就業者数はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

31 医療法に規定されていないのはどれか。

- a 医療圏
- b 基準病床数
- c 地域医療構想
- d 医師の臨床研修
- e 医療従事者の確保

- 32 ポピュレーションアプローチに該当するのはどれか。
- a 肥満者対象の脂肪吸引
 - b 全職員対象の敷地内禁煙
 - c 高血圧患者対象の内服治療
 - d 長期欠席児童対象の心理相談
 - e うつ病患者対象のカウンセリング
- 33 精神保健福祉センターについて正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 市町村に設置される。
 - b 精神医療審査会の事務を行う。
 - c 障害者総合支援法に規定されている。
 - d 精神障害者保健福祉手帳の発行を行う。
 - e 精神保健福祉に関する知識の普及を行う。
- 34 公助によるものはどれか。
- a 医療保険制度
 - b 介護保険制度
 - c 雇用保険制度
 - d 生活保護制度
 - e 特定健康診査

35 健康日本 21(第二次)の中間評価報告(2018年)について正しいのはどれか。

- a 成人の喫煙率の増加
- b 野菜と果物の摂取量の目標達成
- c 20歳代女性のやせの者の割合の増加
- d 20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合の増加
- e 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の目標達成

36 35歳の男性。仕事中に、作業で使用していた液体の化学物質を全身に浴び、事故から2時間後に来院した。2年前に入職し、配置転換で2週間前から現在の作業を始めたばかりだった。作業内容や使用していた化学物質の詳細については詳しくない。化学物質を浴びた後、すぐに緊急用のシャワーを浴び洗眼したという。意識は清明。身長171 cm、体重65 kg。体温36.8℃。脈拍72/分、整。血圧136/82 mmHg。呼吸数17/分。眼瞼結膜、眼球結膜に充血を認める。顔面の皮膚に発赤を認める。

この患者の治療方針を決定するため、患者の勤務先に照会するものとして**有用でない**のはどれか。なお、患者の同意は得ているものとする。

- a 直近のストレスチェックの結果
- b 直近の定期健康診断の結果
- c 直近の特殊健康診断の結果
- d 安全データシート
- e 曝露時の作業内容

37 38歳の初産婦(1妊0産)。妊娠39週3日に自然陣痛が発来し、3,550gの男児を経膣分娩した。妊娠経過に異常は指摘されていない。分娩第3期から性器出血を認め、出血量は2,000mL(羊水込み)である。脈拍96/分、整。血圧110/70mmHg。外診および内診で子宮底は柔らかく臍上で触知し、子宮出血は持続している。

この時点での対応として適切なのはどれか。3つ選べ。

- a 双手子宮圧迫法
- b 用手的子宮整復
- c オキシトシン投与
- d 硫酸マグネシウム投与
- e 子宮底輪状マッサージ

38 32歳の初産婦(1妊0産)。妊娠24週の妊婦健康診査のため、夫とともに来院した。妊娠初期に単胎妊娠と診断され、以降の妊婦健康診査において異常を認めなかった。人員不足のため、産前・産後に可能な限り勤務を継続して欲しいと勤務先から要請があり悩んでいるという。夫と共働きで生計を立てている。

この患者への説明として正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 「産後12週間は就業できません」
- b 「請求すれば産前6週間の休業が可能です」
- c 「勤務先の要請に従って働くことを勧めます」
- d 「産後、男女ともに育児休業の取得が可能です」
- e 「産前・産後の休業中は解雇されることはありません」

39 日齢3の女児。在胎39週、2,900g、Apgarスコア8点(5分)で出生した。①体重2,400g。体温37.4℃。心拍数120/分、整。②血圧70/40mmHg。呼吸数44/分。③大泉門は2×2cm。④生後8時間後に暗緑色の排便を認め、⑤生後12時間後から黄疸が目立つようになった。

下線部のうち異常所見はどれか。2つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

40 6月上旬のある日。午後1時過ぎに、近所の小学校の校庭で遊んでいた児童数名が、頭痛、咽頭痛、咳、強い目の刺激を訴えて来院した。いずれの児童も意識清明、体温は36℃台。眼球結膜に軽度発赤を認める。発汗を認める。天気は快晴、気温31.2℃、湿度60%、微風であった。小学校のある地域は、自動車の交通量が多く、市が指定するごみの焼却施設が10km離れたところにある。

原因として最も可能性の高いのはどれか。

- a 輻射熱
- b 一酸化炭素
- c ダイオキシシン
- d 微小粒子状物質
- e 光化学オキシダント

41 55歳の男性。高血圧症の定期診察のため来院した。3年前に職場の健康診査で高血圧を指摘された。その後、降圧薬で治療を受けている。家庭血圧は適切な範囲で管理されている。1日30分のウォーキングをしている。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。身長168 cm、体重58 kg。体温36.2℃。脈拍72/分、整。血圧122/68 mmHg。尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液生化学所見：AST 28 U/L、ALT 18 U/L、 γ -GT 40 U/L(基準値8～50)、クレアチニン0.6 mg/dL、血糖68 mg/dL、HbA1c 5.4%(基準値4.6～6.2)、トリグリセリド70 mg/dL、HDL コレステロール62 mg/dL、LDL コレステロール102 mg/dL。

この患者の日常生活指導として適切なのはどれか。

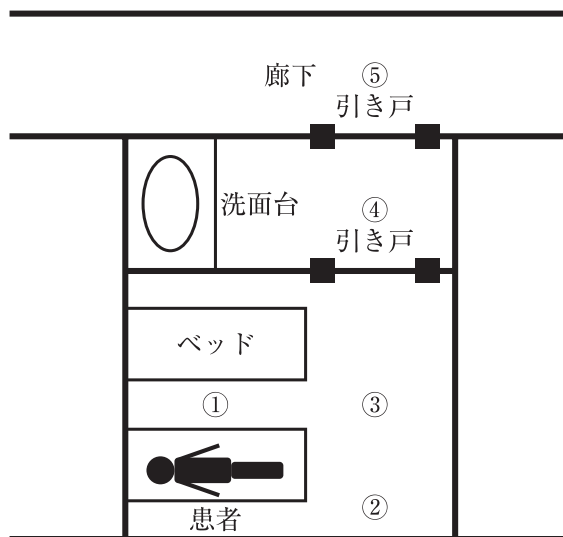
- a 「禁酒しましょう」
- b 「運動はもう必要ありません」
- c 「内服薬は時々休みましょう」
- d 「家庭血圧の測定を続けてください」
- e 「定期的な健康診査は受けなくてよいです」

42 50歳の女性。健康診断で初めて血圧高値を指摘され来院した。健康診断時の血圧は138/88 mmHgであった。体重は20歳ごろから変わっていない。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴はない。飲酒はビール350 mL/日を週2回。仕事は忙しく、運動する機会はほとんどない。身長162 cm、体重58 kg。BMI 22.0。脈拍68/分、整。血圧134/82 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。尿検査：蛋白(－)。血液生化学所見：クレアチニン0.6 mg/dL、尿酸6.0 mg/dL、空腹時血糖68 mg/dL、HbA1c 5.8%(基準4.6～6.2)、総コレステロール196 mg/dL、トリグリセリド100 mg/dL、HDLコレステロール68 mg/dL。食事内容の評価で、食塩摂取量5.5 g/日、野菜摂取量350 g/日。

この患者の生活習慣に対する指導として適切なのはどれか。

- a 飲酒の禁止
- b 運動の推奨
- c 体重の減量
- d 食塩摂取の制限
- e 野菜摂取の制限

43 75歳の男性。医療スタッフが個人用防護具を使用した対応が必要な感染症で入院した。慢性閉塞性肺疾患の既往があり、現在も咳嗽を認める。この患者の病室の間取り図を示す。廊下で個人防護具を着用し入室して診察した。



診察後、使用した個人用防護具を脱衣するのに最も適切なのはどこか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

44 6歳の女兒。乳房が大きくなってきたことが心配で母親に連れられて来院した。

身長 124.1 cm(+2.1 SD)、体重 29.5 kg(+2.2 SD)。陰毛、腋毛は認めない。

診断のために行うべきものとして適切でないのはどれか。

- a 頭部 MRI
- b 成長曲線の確認
- c 腹部超音波検査
- d アルギニン負荷試験
- e 手根骨エックス線撮影

45 24歳の男性。意識障害のため救急車で搬入された。3か月前から職場の上司にパワハラを受けていると悩んでいた。今朝、自宅のガレージで倒れているのを母親が発見し、救急車を要請した。本人の着衣と口腔内からは強い有機溶媒臭がしており、ガレージには灯油が残ったコップがあった。搬入後、次第に呼吸状態の悪化を認めた。意識レベルはJCSⅢ-100。体温 36.8℃。心拍数 104/分、整。血圧 120/80 mmHg。呼吸数 32/分。SpO₂ 88% (リザーバー付マスク 10 L/分 酸素投与下)。

次に行うべき適切な対応はどれか。

- a 胃洗浄
- b 血液透析
- c 気管挿管
- d 大量輸液
- e 高気圧酸素治療

46 16歳の男子。約2か月前から「部屋の中を誰かに覗かれている」、「自宅にいても、友達が自分の悪口を言っているのが聞こえる」などと訴えるため、心配した両親に連れられて精神科を受診した。診察した精神保健指定医は、本人に治療したいという気持ちがないため、両親の同意を得て医療保護入院とした。入院7日目、「自分は病気じゃないから退院したい」と言い、担当医が入院の継続を勧めると「退院請求というのを聞いたので手続きをしたい」と訴えた。

退院請求について正しいのはどれか。

- a 病院長の許可が必要である。
- b 口頭では行うことができない。
- c 閉鎖病棟入院中でなければ行えない。
- d 弁護士を代理人として行うことができる。
- e 両親ともに同意している医療保護入院では行えない。

47 生後4時間の女児。胎児超音波検査で異常を指摘されていた。在胎37週、出生体重2,850gで出生した。眼裂斜上と平坦な鼻根部とを認める。胎児超音波像(別冊No. 3A)と出生後に撮影した胸腹部エックス線写真(別冊No. 3B)とを別に示す。

この児に予想される染色体核型はどれか。

- a 45, X
- b 46, XX, 5p-
- c 47, XX, +13
- d 47, XX, +18
- e 47, XX, +21

別 冊

No. 3 A、B

48 32歳の女性。無月経を主訴に来院した。最終月経は、令和4年1月1日から6日間。同年2月1日に人工授精し、3月7日に受診した。最近1年間の性交渉歴はない。妊娠判定試薬は陽性であった。

この時点で適切な経腔超音波検査所見はどれか。

- a 胎囊のみ
- b 心拍動を認める胎芽
- c 木の葉状の子宮内膜像
- d 頭殿長<CRL>3.0 cm の胎児
- e 児頭大横径<BPD>3.0 cm の胎児

49 10歳の男児。左大腿部痛を主訴に父親に連れられて来院した。すべり台から誤って転落し受傷した。身長150 cm、体重45 kg。歩行は不能で左大腿部に腫脹を認めた。左大腿骨エックス線写真で大腿骨骨幹部骨折を認め、受傷翌日、観血的骨接合術が行われた。術後経過は順調で、術後8週が経過し、左大腿部に異常所見を認めない。来院時と術後8週の左大腿骨エックス線写真(別冊No. 4)を別に示す。

術後8週の骨折部の状態で正しいのはどれか。

- a 骨腫瘍が発生している。
- b 仮骨が形成されている。
- c 腐骨が形成されている。
- d 異所性骨化が生じている。
- e 阻血性壊死が生じている。

別冊

No. 4

50 36歳の女性。多発関節痛を主訴に来院した。3か月前から微熱が出現し、脱毛が増加した。2か月前から両手のこわばり、関節痛が出現した。3週間前から両手指に紅斑が出現し、先週から38℃台の発熱があり紹介受診した。体温37.4℃。脈拍96/分、整。血圧108/58 mmHg。前頭部に頭髪の減少を認める。顔面に紅斑を認めない。硬口蓋粘膜に発赤とびらんを認める。両側頸部、腋窩に径1 cm未満の軽度圧痛を伴うリンパ節を触知する。心音と呼吸音とに異常を認めない。両手指に凍瘡様皮疹を認める。右手関節と両手指近位指節間関節に腫脹と圧痛を認める。尿所見：蛋白2+、糖(-)、潜血2+、沈渣に赤血球10~19/HPF、変形赤血球を認める。血液所見：赤血球409万、Hb 10.5 g/dL、Ht 34%、白血球2,800(好中球75%、単球7%、リンパ球18%)、血小板9.6万、PT-INR 1.1(基準0.9~1.1)、APTT 43秒(基準対照32.2)、血漿フィブリノゲン248 mg/dL(基準186~355)。血液生化学所見：総蛋白7.4 g/dL、アルブミン3.0 g/dL、AST 23 U/L、ALT 15 U/L、LD 237 U/L(基準120~245)、CK 26 U/L(基準30~140)、尿素窒素12 mg/dL、クレアチニン0.6 mg/dL、血糖93 mg/dL。CRP 0.1 mg/dL。

最も考えられるのはどれか。

- a 皮膚筋炎
- b Behçet病
- c 関節リウマチ
- d Sjögren症候群
- e 全身性エリテマトーデス

51 3歳2か月の女兒。健康診査のため母親に連れられて来院した。上手に歩くことはできるが、①ひとりで階段を昇れない。上着を自分で脱ぐが、②ひとりでは着られない。同年齢の子ども達と遊べるが、③ルールのある遊びはできない。自分の名前は言えるが、④住所は言えない。物の大小はわかるが、⑤左右はわからない。

下線部のうち発達の異常が考えられるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

52 64歳の男性。①脳出血で入院し、リハビリテーション後に、自宅に退院して1か月が経過した。現在は②右上下肢に軽度の運動麻痺が残存しており、杖歩行をしている。山間部の③過疎地域で④妻と2人で暮らしている。⑤近所付き合いはない。退院後は自宅で農業をしながら、年金で生活している。

下線部のうち国際生活機能分類<ICF>の生活機能における参加に分類されるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

53 58歳の女性。頭痛を主訴に来院した。暑い日の午前、工作中に少しめまいを感じ、頭痛も出現したため受診した。作業中に大量に汗をかいた。最近、家族の介護が忙しく、寝不足が続いていた。仕事は空調のない自宅の作業場で、部屋を閉め切って縫製の作業をしている。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴と飲酒歴はない。身長 155 cm、体重 70 kg。BMI 29.1。体温 36.4℃。身体診察と神経診察とに異常を認めない。

この患者に対する説明として適切なのはどれか。

- a 「今後は縫製作業を控えましょう」
- b 「肥満と症状は関係ないでしょう」
- c 「寝不足と症状は関係ないでしょう」
- d 「作業場の室温を下げるようにしましょう」
- e 「のどが渴いていなければ水分を摂る必要はないでしょう」

54 28歳の経産婦(3妊2産)。妊娠41週0日、分娩予定日超過のため管理目的に入院した。推定胎児体重は3,100g。妊娠41週1日、午前9時からオキシトシンで陣痛誘発を開始した。午後6時に一過性の胎児徐脈が出現した。胎児心拍数陣痛図(別冊No. 5)を別に示す。内診で子宮口は7cm開大、展退度は90%、硬度は軟、児頭下降度はSP-1cm、胎胞を触知した。

まず行うべき対応はどれか。

- a 吸引分娩
- b 人工破膜
- c 体位変換
- d 帝王切開
- e 子宮収縮抑制薬投与

別 冊

No. 5

55 36歳の経産婦(2妊1産)。妊娠38週2日、破水感を主訴に来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めなかった。午前5時、就寝中に羊水流出感を自覚し、持続するため午前7時に受診した。内診で分泌物は水様性、BTB紙で青変、子宮口は3cm開大、展退度は60%、硬度は軟、児頭下降度はSP±0cmであった。入院し経過観察を行うこととした。午後1時の内診で児頭の矢状縫合は母体骨盤縦径に一致し、小泉門を12時方向に触知した。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線は145bpm、基線細変動は中等度、繰り返さず早発一過性徐脈を認めた。パルトグラム(別冊No. 6)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 会陰切開
- b 吸引分娩
- c 帝王切開
- d 子宮底圧出法
- e 子宮収縮薬点滴静注

別冊 No. 6

56 85歳の男性。尿量の低下を主訴に来院した。1年前から断続的に無症候性肉眼的血尿がみられたが、数日程度で消退していたため放置していた。1週間前から倦怠感が強くなり、尿量が低下したため受診した。喫煙は20歳から30本/日を60年間。5年前から禁煙している。飲酒は機会飲酒。家族歴に特記すべきことはない。意識は清明。身長162 cm、体重52 kg。体温36.4℃。脈拍80/分、整。血圧120/76 mmHg。呼吸数16/分。腹部は平坦で、圧痛を認めない。下肢に浮腫を認める。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、ケトン体(－)、潜血3＋、沈渣に赤血球100以上/HPF、白血球1～4/HPFを認める。血液所見：赤血球285万、Hb 8.5 g/dL、Ht 29%、白血球5,500、血小板20万。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン2.8 g/dL、総ビリルビン1.0 mg/dL、AST 26 U/L、ALT 15 U/L、LD 136 U/L(基準120～245)、尿素窒素66 mg/dL、クレアチニン5.1 mg/dL、尿酸5.8 mg/dL、血糖93 mg/dL、Na 134 mEq/L、K 5.8 mEq/L、Cl 98 mEq/L。腹部超音波検査で両側の水腎症と尿管拡張、膀胱内に腫瘤を認めた。腹部単純CT(別冊No. 7)を別に示す。

直ちに行うべき治療はどれか。

- a 血液透析
- b 腎瘻造設術
- c 尿道カテーテル留置
- d 膀胱瘻造設術
- e 利尿薬投与

別 冊

No. 7

57 72歳の男性。2年前に喉頭癌に対して放射線治療を受け、その後再発を認めていない。喫煙は喉頭癌の診断まで20本/日を45年間。飲酒は焼酎200mL/日を40年間。

この患者で経過中に重複癌を生じる可能性が低い部位はどれか。

- a 口 腔
- b 下咽頭
- c 肺
- d 食 道
- e 陰 茎

58 29歳の男性。職場健診で胸部エックス線写真の異常陰影を指摘され、精査目的に来院した。3か月前に海外から来日し、近隣の工場で勤務している。来日前は大きな病気にかかったことはないが、最近、咳き込むことがあるという。職場から提供されたアパートで同郷の3人と共同生活をしている。血液検査で結核菌特異的全血インターフェロン γ 遊離測定法<IGRA>が陽性であった。

この患者の結核菌感染の診断確定に必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 胸部単純CT
- b 胸部単純MRI
- c ツベルクリン反応
- d 喀痰結核菌培養検査
- e 喀痰結核菌PCR検査

59 32歳の経産婦(2妊1産)。妊娠34週1日。突然の性器出血を主訴に来院した。第1子を妊娠38週で経膈分娩している。体温36.5℃。脈拍84/分、整。血圧108/64 mmHg。膈鏡診で膈内に凝血塊の貯留を認め、子宮口から血液流出が持続している。計測できた出血量は約250 mLである。腹部超音波検査で胎児推定体重2,230 g、羊水量は正常。胎児心拍数陣痛図で10分ごとの子宮収縮を認め、胎児心拍数波形に異常を認めない。経膈超音波像(別冊No. 8)を別に示す。

適切な説明はどれか。

- a 「緊急帝王切開が必要です」
- b 「子宮頸管を縫縮します」
- c 「子宮収縮薬を点滴します」
- d 「自己血貯血を行います」
- e 「副腎皮質ステロイドを筋肉注射します」

別 冊

No. 8

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

76歳の男性。食欲不振と倦怠感を主訴に来院した。

現病歴 : 1週間前から倦怠感と水様便(1日2回～4回)が出現した。食欲がなく、おかゆを無理に食べている。悪心はあるが嘔吐、腹痛、黒色便および血便はない。体重が3kg減少した。37℃台の微熱があるが悪寒戦慄はない。

既往歴 : 高血圧症でカルシウム拮抗薬を内服している。アレルギーなし。

生活歴 : 妻と2人暮らし。喫煙は20歳から40本/日。飲酒歴はない。

家族歴 : 兄が60歳台で大腸癌。

現症 : 意識は清明だがややぐったりしている。身長166cm、体重69kg。体温37.5℃。脈拍104/分、整。血圧86/50mmHg。呼吸数20/分。SpO₂96%(room air)。皮膚は乾燥し、色素沈着を認めない。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内は乾燥しており咽頭発赤はない。頸静脈の怒張を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節を触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、圧痛はなく、肝・脾を触知しない。四肢末梢は冷たいがチアノーゼや浮腫を認めない。ばち指を認める。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。血液所見：赤血球437万、Hb12.3g/dL、Ht34%、白血球5,400(好中球45%、好酸球21%、好塩基球1%、単球9%、リンパ球24%)、血小板23万。血液生化学所見：総蛋白6.3g/dL、アルブミン3.7g/dL、総ビリルビン0.5mg/dL、直接ビリルビン0.2mg/dL、AST43U/L、ALT78U/L、LD169U/L(基準120～245)、ALP200U/L(基準38～113)、 γ -GT96U/L(基準8～50)、CK100U/L(基準30～140)、尿素窒素11mg/dL、クレアチニン1.0mg/dL、尿酸3.7mg/dL、血糖92mg/dL、Na118mEq/L、K4.6mEq/L、Cl89mEq/L、Ca8.4mg/dL。血清浸透圧240mOsm/L(基準275～288)、尿浸透圧572mOsm/L(基準50～1,300)、尿中Na84mEq/L。胸部エックス線写真(別冊No.9A)と胸腹部造影CT(別冊No.9B、C)を別に示す。

別冊

No. 9 A、B、C

- 60 この患者の電解質異常の鑑別に有用な検査はどれか。2つ選べ。
- a プロラクチン
 - b ACTH とコルチゾール
 - c 副甲状腺ホルモン〈PTH〉
 - d レニン・アルドステロン比
 - e TSH と遊離サイロキシン〈FT₄〉
- 61 患者は入院し、電解質補正を行った。気管支鏡検査で肺小細胞癌と診断され、殺細胞性抗癌薬による治療を開始することとなった。
- 抗癌治療による肝炎の再活性化のリスクが高いのはどれか。
- a A 型肝炎
 - b B 型肝炎
 - c C 型肝炎
 - d D 型肝炎
 - e E 型肝炎
- 62 治療を行っていたが、がんが再発し全身状態が悪化した。
- この患者の意思決定のプロセスとして適切でないのはどれか。
- a 患者の価値観や希望を聞き取る。
 - b 病状の変化により話し合いを繰り返す。
 - c 患者の意思を代行できる人がいるか聞く。
 - d 家族の意向を本人の意向よりも優先する。
 - e 病状や予後について患者の理解を確かめる。

次の文を読み、63～65の問いに答えよ。

50歳の女性。発熱と強い動悸のため救急車で搬入された。

現病歴 : 6日前から咽頭痛と軽度の咳嗽が出現し、自宅近くの診療所で総合感冒薬の処方を受けた。3日前から発熱と前頸部痛が出現し、今朝から強い動悸も自覚したため娘が救急車を要請した。

既往歴 : 高血圧症でカルシウム拮抗薬を内服している。

生活歴 : 夫、大学生の娘と3人暮らし。喫煙は20歳から30歳まで10本/日。飲酒歴はない。

家族歴 : 父が高血圧症。

現症 : 意識は清明。身長158 cm、体重52 kg。体温37.8℃。心拍数118/分、整。血圧134/74 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂98%(room air)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺はびまん性に腫大しており、左葉に圧痛を認める。頸部リンパ節の腫大や頸静脈怒張を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に浮腫を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(－)、糖(－)、潜血(－)。赤沈62 mm/1時間。血液所見：赤血球362万、Hb 11.0 g/dL、Ht 32%、白血球6,600、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST 44 U/L、ALT 49 U/L、LD 207 U/L(基準120～245)、ALP 262 U/L(基準38～113)、尿素窒素14 mg/dL、クレアチニン0.8 mg/dL、血糖98 mg/dL、Na 141 mEq/L、K 3.6 mEq/L、Cl 104 mEq/L、Ca 8.8 mg/dL、TSH 0.08 μU/mL(基準0.2～4.0)、FT₃ 9.82 pg/mL(基準2.3～4.3)、FT₄ 3.92 ng/dL(基準0.8～2.2)。免疫血清学所見：CRP 9.2 mg/dL、抗TSH受容体抗体陰性。胸部エックス線写真で心拡大や肺血管影の増強はなく、胸水貯留を認めない。心電図は洞性頻脈でST-T変化を認めない。

63 この患者の病態に関連するもので適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 飲酒歴
- b 喫煙歴
- c 先行する上気道炎症状
- d 圧痛のある甲状腺腫大
- e カルシウム拮抗薬の内服歴

64 診断に最も有用な検査はどれか。

- a 頸部CT
- b 心エコー検査
- c Holter心電図検査
- d 甲状腺超音波検査
- e 甲状腺穿刺細胞診

65 治療として適切なのはどれか。3つ選べ。

- a 抗菌薬
- b NSAID
- c β 遮断薬
- d 抗甲状腺薬
- e 副腎皮質ステロイド

次の文を読み、66～68の問いに答えよ。

52歳の女性。意識障害のため救急車で搬入された。

現病歴 : 5日前から38℃を超える発熱と悪寒戦慄を訴え、市販のアセトアミノフェンを内服していた。本日夕食中に急に頭痛とふらつき感を訴え、嘔吐した。その後いびきをかいて眠りだし、呼びかけに応答しなくなったため、家族が救急車を要請した。

既往歴 : アトピー性皮膚炎で副腎皮質ステロイド外用薬を処方されている。健診で異常を指摘されたことはない。

生活歴 : 夫と2人の息子との4人暮らし。仕事は事務職。喫煙歴はない。飲酒はビール350mL/日。

家族歴 : 両親とも胃癌で死亡。

現症 : 意識レベルはJCSⅢ-200。身長158cm、体重60kg。体温37.8℃。心拍数120/分、整。血圧200/104mmHg。呼吸数16/分。SpO₂100%(リザーバー付マスク10L/分酸素投与下)。救急隊により経鼻エアウェイが挿入されている。瞳孔径は右5.0mm、左3.0mm。対光反射は両側で消失している。心尖部を最強点とするLevine 3/6の収縮期逆流性雑音を聴取する。上気道にいびき音を聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。下腿に浮腫を認めない。両側足趾先端に点状出血斑を合計3ヶ所認める。頸部周囲と両肘内側に鱗屑、紅斑および苔癬化を認め、一部浸出液がみられる。

検査所見 : 尿所見：淡黄褐色透明、蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球450万、Hb13.3g/dL、Ht42%、白血球11,200(桿状核好中球13%、分葉核好中球53%、好酸球8%、好塩基球1%、単球3%、リンパ球23%)、血小板32万、PT-INR1.2(基準0.9~1.1)。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dL、アルブミン4.2g/dL、総ビリルビン0.6mg/dL、直接ビリルビン0.1mg/dL、AST30U/L、ALT13U/L、LD220U/L(基準120~245)、ALP83U/L(基準38~113)、 γ -GT13U/L(基準8~50)、尿素窒素13mg/dL、クレアチニン0.47mg/dL、血糖204mg/dL、Na142mEq/L、K3.5mEq/L、Cl105mEq/L。CRP10mg/dL。心電図は洞性頻脈でST-T変化を認めない。胸部エックス線写真で心胸郭比57%(臥位で撮影)。搬入直後の頭部単純CT(別冊No. 10)を別に示す。

別 冊

No. 10

66 直ちに行うべき処置はどれか。

- a 胃管挿入
- b 気管挿管
- c 中心静脈カテーテル留置
- d ニトログリセリン投与
- e 腰椎穿刺

67 血液培養2セットを採取した後に集中治療室に入室し、抗菌薬投与を開始した。血液培養は2セットとも陽性となり、入室3日目に *Staphylococcus aureus* と同定された。

この結果を受けて実施すべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 尿培養
- b 心エコー検査
- c 末梢神経伝導検査
- d 血中エンドトキシン測定
- e 血液培養再採取による陰性化の確認

68 全身状態が改善し開頭手術が可能と判断された。患者の血液型検査では、オモテ試験は抗 A 血清、抗 B 血清ともに凝集あり、ウラ試験は A 血球、B 血球ともに凝集なし、抗 Rho(D)血清に凝集を認めた。準備する赤血球濃厚液の血液型と患者の血液との交差適合試験の結果を示す。

最も輸血に適した赤血球濃厚液はどれか。

	ABO 型	Rho(D)	主試験凝集	副試験凝集
a	AB	陽性	あり	なし
b	AB	陽性	なし	なし
c	AB	陰性	なし	なし
d	O	陽性	なし	あり
e	O	陰性	なし	あり

次の文を読み、69～71の問いに答えよ。

58歳の男性。胸痛を主訴に救急車で搬入された。

現病歴 : 数日前から労作時や夜間就寝時に胸部圧迫感があったが、約30分で治まるため様子を見ていた。本日、草野球の試合に出て活躍していたが、突然、強い胸痛が出現したため救急車を要請した。

既往歴 : 2年前から高血圧症で降圧薬を内服している。

生活歴 : 妻と2人暮らし。会社員で営業の仕事をしている。

家族歴 : 父が高血圧症。

現症 : 体温37.2℃。心拍数108/分、整。血圧78/58 mmHg。呼吸数24/分。SPO₂99% (リザーバー付マスク10 L/分 酸素投与下)。顔面蒼白で冷汗を認める。心音は微弱で軽度の拡張期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。

検査所見 : 血液所見：Hb 10.2 g/dL、白血球 10,100、血小板 15万。血液生化学所見：CK 230 U/dL(基準30～140)、CK-MB 20 U/L(基準20以下)、尿素窒素 25 mg/dL、クレアチニン 1.1 mg/dL。CRP 3.2 mg/dL。心筋トロポニンT迅速検査陰性。心電図(別冊No. 11A)と心エコー検査を施行した後、胸部造影CT(別冊No. 11B)を行った。

別冊

No. 11 A、B

69 この患者で考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 急性心膜炎
- b 急性心筋梗塞
- c 収縮性心膜炎
- d 急性大動脈解離
- e 心タンポナーデ

70 この患者の心エコー検査で認められる所見はどれか。

- a 下大静脈の虚脱
- b 拡張期の右室の虚脱
- c 収縮期の右房の拡大
- d 上行大動脈基部の狭窄
- e 下大静脈径の呼吸性変動の増加

71 この患者への対応で最も適切なのはどれか。

- a 電氣的除細動
- b β 遮断薬の静注
- c 人工血管置換術
- d 経皮的冠動脈ステント留置術
- e 大動脈ステントグラフト内挿術

次の文を読み、72～74の問いに答えよ。

85歳の男性。発熱と呼吸困難を主訴に家族とともに来院した。

現病歴 : 1年前から息切れのため自宅の階段を昇ることが困難となり、食事や飲水の際のむせが出現した。食事量も低下し、半年間で体重が5 kg 減少した。1週間前から咳嗽と喀痰が多くなり、2日前から38℃の発熱と呼吸困難がみられるようになったため家族に伴われて受診し、入院した。

既往歴 : 15年前から高血圧症に対してアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬を内服している。5年前から物忘れが目立つようになり、2年前にAlzheimer型認知症と診断された。

生活歴 : 65歳まで会社員。現在は娘の家族と同居。喫煙は65歳まで20本/日を45年間。飲酒歴はない。自宅で猫を飼育している。

家族歴 : 両親とも脳梗塞で死亡。

現症 : 意識は清明。身長160 cm、体重43 kg。体温38.0℃。脈拍120/分、整。血圧122/78 mmHg。呼吸数28/分。眼瞼結膜に異常を認めない。口腔内の衛生状態は不良である。心音に異常を認めない。呼吸音は両側でwheezesを、右背側でcoarse cracklesを聴取する。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。浮腫を認めない。

検査所見 : 血液所見：赤血球412万、Hb 13.1 g/dL、Ht 40%、白血球9,800(好中球82%、好酸球2%、好塩基球0%、単球7%、リンパ球9%)、血小板34万。血液生化学所見：総蛋白5.8 g/dL、アルブミン2.9 g/dL、総ビリルビン1.1 mg/dL、AST 14 U/L、ALT 10 U/L、LD 230 U/L(基準120～245)、ALP 64 U/L(基準38～113)、尿素窒素28 mg/dL、クレアチニン1.5 mg/dL、尿酸6.0 mg/dL、血糖135 mg/dL、Na 139 mEq/L、K 4.7 mEq/L、Cl 106 mEq/L。CRP 5.1 mg/dL。動脈血ガス分析(鼻カニューラ2 L/分 酸素投与下)：pH 7.33、PaCO₂ 58 Torr、PaO₂ 72 Torr、HCO₃⁻ 30 mEq/L。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)PCR検査は陰性であった。

72 入院時の胸部エックス線写真(別冊No. 12A)と胸部単純CT(別冊No. 12B)を別に示す。

1 週間前からの状態変化の要因として考えにくいのはどれか。

- a 体重の減少
- b 認知機能の低下
- c 口腔内の衛生状態不良
- d 食事や飲水の際のむせ
- e アンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬の内服

別 冊 No. 12 A、B

73 呼吸状態の急性増悪に対し、抗菌薬とともに用いる薬剤として適切なのはどれか。

- a NSAID
- b β_2 刺激薬
- c アルブミン製剤
- d 抗ヒスタミン薬
- e テオフィリン薬

74 入院3日目、患者の状態は改善傾向で酸素も不要となったが、急に呼吸心拍モニターを引きちぎり、「今日は仕事に行く」と言い病室から出ようとした。表情は乏しく、入院中であることを説明しても聞きいれず、複数名での制止を要する状態であった。

対応で誤っているのはどれか。

- a 脱水を避ける。
- b 早期離床を促す。
- c 日中の覚醒を保つ。
- d 呼吸心拍モニターを終了する。
- e 夜間はベンゾジアゼピン系睡眠薬を用いる。

75 12歳の男児。来年の中学校進学を前に、夜尿が治らないため両親に連れられて来院した。食生活では減塩するように心がけ、夕食後には水分摂取を控えているという。尿所見：尿比重1.030、蛋白(－)、糖(－)。腹部超音波検査で両腎と膀胱に異常を認めない。塩分摂取量を推測するため、蓄尿検査で1日塩分排泄量を測定することとした。後日得られた検体は、尿量1,200 mL、尿中Na 150 mEq/L、尿中Cl 100 mEq/L、尿クレアチニン 100 mg/dL、尿蛋白 18 mg/dLであった。

尿中の1日塩分排泄量を求めよ。

ただし、NaCl 1 gはNa 17 mEqに相当するものとする。

また、小数点以下の数値が得られた場合には、小数第1位を四捨五入すること。

尿中の1日塩分排泄量：① ② g

① ②

0 0

1 1

2 2

3 3

4 4

5 5

6 6

7 7

8 8

9 9

